

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 1 月 25 日作成)

小委員会名	建築教育研究小委員会		主 査 名：阿部 浩和 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育本委員会		委員長名：稲葉 武司 主 査 名：
設 置 期 間	2007 年 4 月 ～ 2011 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育カリキュラム、教育技術、教育制度など建築教育に関わる基本的な課題・問題について調査研究を行う。 ・ 建築教育の事例収集を実施するとともに、建築教育の国際化のための調査研究を実施する。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	阿部浩和 (大阪大学) 齊藤理 (東京理科大学) 森傑 (北海道大学) 鈴木広隆 (大阪市立大学) 山内一晃 (名古屋女子大) 妹尾理子 (香川大学教育学部) 西村伸也 (新潟大学) 平沢岳人 (千葉大学) 久木章江 (文化女子大学) 伊藤俊介 (東京電機大学) 宮本昌彦 (大阪市立デザイン教育研究所) 藤本佳子 (千里金蘭大学) 富岡義人 (三重大学) 連健夫 (連健夫建築研究室) 横山ゆりか (東京大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	WG 名：建築教育シンポジウム企画 WG 目 的：各年度の企画立案、運営実務		
2010 年度予算	230,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称 第 11 回建築教育シンポジウム 参加者数 24 名 (資料名) 建築教育研究論文報告集 No.11
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	第11回建築教育シンポジウムにおいて、「歴史的視点を取り入れた建築教育の可能性と展望」と題して、現代において歴史的視点を持つことの意義を整理すると共に、これからの教育制度、教育手法のあり方を議論するとともに、「建築計画教育・市民教育」「建築設計教育」などの視点で学術論文発表会を開催し、教育研究小委員会からは5編の建築教育に関わる研究論文を発表した。これらは当委員会の対外的意見表明である。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 教育カリキュラム、教育技術、教育制度など建築教育に関わる基本的な課題に関する調査研究については、教育小委員会として第 11 回建築教育シンポジウムにおける学術論文発表において多くの研究発表がなされ、十分な成果が得られたこと等より達成されていると考える。</p> <p>2. 建築教育の事例収集、建築教育の国際化のための調査研究については第 11 回建築教育シンポジウムにて歴史的視点を取り入れた建築教育に関する招待講演を実施することにより達成されたと考える。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 委員が全国に散在するため、意見交換を行う機会の検討</p> <p>2. 教育研究に関する諸分野を統合するテーマの設定</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。